

事例：

「二人からの贈り物」

純子さんは現在55歳。長年、病院で医療事務の仕事をしています。彼女には、結婚した2人の娘さんがいます。二人とも、嫁ぎ先のご両親や親戚の方に可愛がってもらっていますし、それぞれのご両親から「明るくて素敵な娘さんですね」と言われるのを嬉しく思っています。純子さん自身も、よい親戚付き合いができていますが、ひとつだけ気になることがありました。

長女（良子さん）の嫁ぎ先から、毎年お中元で干しエビが届けられるのですが、使い途に困っているのです。長女のお姑さん（優子さん）は、料理が得意で、いつも手間暇かけておいしい料理を作ってくくださるのだと長女から聞かされてきました。干しエビは、そのお姑さんがいろいろな料理に使う食材の一つ。何度か食事に招待され、ごちそうになった料理の中にも使われていて、とても美味しかったのを覚えています。しかし、長女のお姑さんと違い、ずっと働きながら家事を両立してきて、料理に手間暇かける時間の余裕のなかった純子さんにとっては、どう調理していいかわかりません。長女を通じて調理法を教えてもらってもいいのですが、長女の立場を考えるとそれもできずにいます。結局干しエビは封を開けることなく、棚の上に置いたまま。それが毎年一つ、二つと増えていっています。届いたらすぐにお礼状は出しているものの、「お味はいかがでしたか？」などと聞かれはしないかと、いつもヒヤヒヤしています。

一方、次女のお姑さんからも同じようにお中元が届きます。次女のお姑さんは、長年パートの食品売り場に勤務されていた方です。ですから忙しくてもちょっと口にできるものをと、お菓子やフルーツの詰め合わせなどが届きます。品物を選ぶ際も、事前に次女に「今年は～にしてみようかと思うんだけど、どうかしら？」と相談し、一緒に品物を選んでいるのだと聞いています。送られる品物はどれも美味しくて重宝していて、届いたらすぐに、「いつもありがとうございます」と電話で連絡を入れています。（大西恵子さんからの投稿事例です / 20090809）

皆さんはどのように感じられましたか？

~~~~~

**設問：** 次年。お中元の準備をする時期が近づいた6月中旬です。

あなたは純子さんです。 どうしますか？ 例年通り、どうもませんか？

長女の良さんは、5月に用事で実家へ帰った折りに、台所の棚に干しエビの袋が開封されずに数個おいてあるのを見つけ、事情を察知しました。

あなたは長女の良さんです。（現在は6月）どうしますか？ どうもませんか？

あなたは長女良さんの嫁ぎ先のお姑さんの優子さんです。ふとした折りに、お嫁さんの良さんの言葉の端から、事情を知りました。

あなたは良さんのお姑さんの優子さんです。 どうしますか？ 例年通り干しエビを贈りますか？（例年、心を込めてお中元を贈ってきた優子さんです・・・）